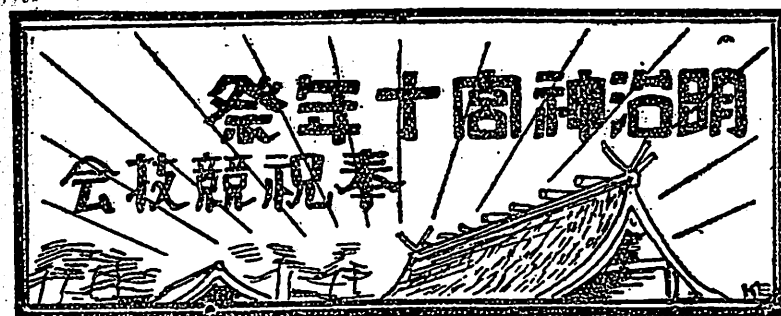


「運動界」  
第十一卷 第十二号

昭和五年十一月十七日印刷納本  
昭和五年十二月一日発行



# 球野



奉祝大會の野球は、全國選抜中等學校八雄の間に行はれた。夏の中等  
 覇者は真先に諏訪縣系に敗れ、大毎の選抜勝者神港は第一日靜中と十  
 四回戦の苦戦して辛勝したが、第二日愛商に一蹴され、諏訪も第二日に  
 は松山に敗れた。決勝の松山は有利に七回送り下したが投手交代を  
 誤つて最後に愛商の遊襲を蒙り潮堀は遂に愛商の手に歸した。

## △諏訪九A、廣商八

三日午前十一時から神宮球場で内田外苑管理署長の始球式あり、三  
 宅(球)藤田(壘)兩審判の下に廣商の先攻で開始  
 ◇第一回 諏訪小口四球小林儀打、中村好二——二後の高目直球を右  
 越三壘打して小口生還、更に右翼送球を中継した二壘手の三壘悪投で  
 中村も生還(廣0諏2)

土手二匍安打(諏訪中村好投手、中村三壘となる)中森中堅安打し  
 て鶴田生還、竹岡田中の四球で土手押出され尚満塁だったが太田三振  
 三點を入れて形勢又逆轉△諏訪武居遊撃強襲安打小口儀打小松四球中  
 村好三振後中村三壘抜安打で武居生還、伊藤も右前安打で小松還り  
 捕逸で中村三、伊藤と續いて生還し、四點を加へて又優勢を復す(廣  
 3諏4)

◇第九回 廣商(諏訪再び中村三投手、中村好一壘となる)一死後杉  
 田左中間三壘打、保田左中間二壘打で一踏、鶴田遊左側、土手投手抜  
 の安打で満塁となり久森三振後竹岡四球で保田生還したが田中二匍で  
 終り九A對八で諏訪勝つ(閉戦一時十八分)

失策	四	六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
盗球	二	二	二	二	二	二	二	二	二
安打	三	四	二	二	三	二	三	二	二
打數	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
失策	三	〇	三	二	〇	〇	〇	〇	〇
盗球	一	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇
安打	三	二	三	二	二	三	二	二	二
打數	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二

## △神港三、靜中零

延長十四回目に靜中打たる

神港商業對靜岡中學は午前十一時より早大球場で淺沼(球)池田(壘)

敵失	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
得點	2	0	0	0	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
安打	0	0	0	0	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
打數	0	0	0	0	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
失策	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
盗球	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	10	8	計	9	13	3														

◇第四回廣島太田、灰山、杉田四球、保田三邪飛後鶴田の右儀飛で太田  
 生還杉田二盗後土手の中堅安打で灰山杉田生還し形勢逆轉△諏訪二死  
 後金子二間武居遊三間に安打したが小口三振して入らず(廣3諏0)  
 ◇第五回 諏訪小松右越三壘打中村好四球、中村三三匍失で満塁とな  
 り、伊藤遊三間安打して小松中村生還、中村三もつとしたが本壘で刺  
 さる。山下四球、今井三匍で山下封殺金子遊飛に了る(廣0諏2)  
 ◇第七回 廣商竹岡四球あつたのみ△諏訪一死後伊藤三壘強襲安打し  
 二盗遊失に生き山下の投仰と今井の中堅安打で生還(廣0諏1)  
 ◇第八回 廣商一死後保田遊越テキサスし鶴田の三壘抜二壘打で生還

審判の下に神港の先攻に開始

敵失	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
得點	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
安打	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打數	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
失策	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
盗球	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	11	3	計	0	11	3														

◇第一回 神港後藤遊三間安打に出たが後なし△靜岡一死後田中修、  
 鈴木芳共四球あつたが鈴木吉の一壘強匍で重殺  
 ◇第二回 神港二死後高島三壘強襲安打△靜岡も二死後下山三壘線を  
 抜く安打で左翼の後逸に二進したのみ  
 ◇第三回 神港鳥遊三間安打で送られたのみ△靜岡一死後今井四球二  
 盗したが田中(修)の中直で又重殺  
 ◇第四回 靜岡一死後鈴木(吉)の四球も望月の二匍で三度重殺  
 ◇第五回 靜岡一死後下山遊三間安打あつたのみ  
 ◇第六回 神港一死後藤中右間の安打二盗したが濱崎の二飛で重殺  
 △靜岡二死後田中修二匍失のみ  
 ◇第七回 神港二死後釣投足抜き安打のみ  
 ◇第八回 神港寺岡遊三間の安打△靜岡二死後田中(港)遊匍不規則安  
 打、中村二壘越直球安打あつたが共に後なし△九回も兩軍無爲遂に無  
 得點のまま補回戦に入る  
 ◇第十回、十一回 兩軍依然無爲  
 ◇第十二回 神港一死後高島三壘線を抜く二壘打したが後なし  
 ◇第十三回 靜岡一死後下山二匍内野安打となつたのみ、兩投手の好  
 防に試合は際限なく延長す  
 ◇第十四回 神港一死後岸本左越二壘打、釣も一壘線二壘打で岸本生

初めて本壘を踏む、高島左飛後寺岡も左越二壘打に釣生還し鳥も亦中堅二壘打し寺岡還り鳥一塁三進せんとして刺さる△△静岡一死後今井三壘線へ安打したが田中(修)鈴木(秀)中飛に下り、流石の大接戦も鈴木木の疲勞によつて三對零を以て靜中の惜敗となる、閉戦一時十三分

藤崎瀬本	鳥岡	田	矢策	二
後濱高岸	高島	平	三死	一
(神)	(一遊)	(左)	(中)	(捕)
(二)	(三)	(右)	(三)	(右)
(打)	(安)	(打)	(打)	(打)
(數)	(打)	(數)	(數)	(數)
(五)	(一)	(三)	(一)	(三)

井(修)	芳(吉)	月(浩)	美(山)	村	打	數	四
(中)	(木)	(佐)	(中)	(安)	(打)	(打)	(打)
(今)	(田)	(鈴)	(望)	(宇)	(下)	(田)	(中)
(中)	(二)	(投)	(遊)	(一)	(三)	(右)	(捕)
(失)	(四)	(三)	(盜)	(振)	(策)	(球)	(死)
(一)	(五)	(四)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)

### △愛商十一A、平安七

愛知商業對平安は午後二時四分から戸塚に於て池田(球)淺沼(雙)兩氏審判の下に開始平安先攻

愛知 33005000A 11  
平安 000020113 7

第一回 平安二安打あつたが不入△愛知一死後伊藤、勝川、鶴岡長野、小島と連戦四球で二點を押し出し春日井三振後高橋の二旬内野安打となり鶴岡生還小塚遊歩に了る、平安兄伊藤の無制球甚し(平0愛3)

一點を加ふ(平1愛0)  
第八回 平安二死後稻田四球三盜伊藤(兄)の左前安打で還り又一點を増す(平1愛0)  
第九回 平安内海の左中間二壘打以下三安打に又三點を返したが差大きく十一A對七で敗る四時廿三分閉戦

### △松山十四、敦商一

松山商業對敦商は三日午後二時から神宮球場で藤田(球)三宅敦氏審判の下に松山先攻で開始。

敦商 0001000000  
松山 0001235012 141

兩軍凡退をつとけて第三回に入り松山二死後高須の中越大飛球は三壘送球の間に本壘打となる阿部左飛失で二盜、矢野四球に出たが後なし(松1敦0)  
第四回 松山藤堂遊越安打三森の二壘強襲の三壘打で生還、宇野の遊越安打に三森も還る、△敦賀二死後栗田中堅安打小林の右翼安打と三壘への高投で栗田生還(松2敦1)  
第五回 松山高須以下四安打を放つて一壘三點を加ふ△敦賀(松山宇野中堅矢野右翼となる) 凡退(松3敦0)  
第六回 松山は高須の本壘打阿部の左越二壘打尾茂田の遊三間安打と二敵失一飛等又五點を加ふ△敦賀(松山三森投手山下右翼矢野三壘となる) 依然機なし(松5敦0)  
第七回 松山(敦賀)川投手、小林一壘、城戸右翼、大井中堅となる△三森の安打のみ△敦賀凡退  
第八回 松山二死後矢野遊歩失に出で尾茂田の左中間三壘打で生還

第二回 平安岡村右前安打伊藤(弟)中飛後中川左越二壘打したが不入△愛知平島、伊藤共に四球(平安伊藤(兄)中堅伊藤(弟)投手となる)二死後長野左中一壘打して二者生還長野は中繼の遊撃三壘低投で還り小島右前安打暴投に二進、春日井も四球に續いたが高橋三振(平0愛3)  
第三回 平安伊藤(兄)本田の二四球あつたのみ△愛知二死後伊藤三初一失あつたのみ。  
第四回 平安一死後中川左前安打△愛知一死後長野四球二盜あつたのみ。  
第五回 平安一死後伊藤(兄)本田四球、内海中前安打で満塁の時岡村左前安打して二者生還△愛知二安打一四球で満塁の時勝川の右越二壘打に二點、鶴岡小島の安打あつてつといて五點を加ふ(平0愛5)  
第六回 平安愛知勝川投手、小島二壘、小塚遊撃となる(無爲△愛知二死後平島の四球だけ)  
第七回 平安一死後伊藤四球本田左前安打内海遊歩失岡村の四球に

平	伊	勝	鶴	長	小	春	高	小
(遊)	(中)	(左)	(右)	(中)	(捕)	(三)	(右)	(捕)
(失)	(四)	(三)	(盜)	(振)	(策)	(球)	(死)	(一)
(二)	(九)	(七)	(二)	(〇)	(二)	(八)	(二)	(一)

愛	知	平	伊	勝	鶴	長	小	春	高	小
(三)	(一)	(遊)	(捕)	(中)	(二)	(右)	(左)	(遊)		
(打)	(安)	(打)	(打)	(數)	(數)	(數)	(數)	(數)	(數)	(數)
(三)	(五)	(〇)	(〇)	(〇)	(八)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)

(松1敦0)  
第九回 松山二安打一敵失で又二點、敦賀一死後大井左中間三壘打したが栗田遊直に重殺十四對一で松山大勝、閉戦四時

須	部	野	田	堂	内	森	下	野
(高)	(阿)	(矢)	(尾)	(藤)	(寺)	(三)	(山)	(宇)
(遊)	(一)	(左)	(中)	(捕)	(二)	(三)	(投)	(右)
(失)	(四)	(三)	(盜)	(振)	(策)	(球)	(死)	(一)
(一)	(三)	(三)	(三)	(二)	(一)	(一)	(一)	(一)

### 「准決勝」△松山十、諏訪三

准決勝松山商業對諏訪は四日午前十一時から神宮球場で審判淺沼(球)池田(雙)氏の下に松山先攻  
諏訪 000100101  
松山 1500103000

第一回 松山一死後阿部左前安打で矢野の三振の時二盜、尾茂田の右前テキサスで生還(松1諏0)  
第二回 松山寺内山下四球宇野左前安打で満塁高須四球で寺内還り(諏訪中村好投手中村三壘となる)阿部四球で山下も押し出し、矢野三振の二死後尾茂田の右中間二壘打で三者生還五點を入れる△諏訪小口、山下四球を得たのみ(松5諏0)



で三進、矢野左翼線の二壘打で生還、△愛商小塚死球、手塚四球(松山投手を三森に代え、三壘矢野左翼山下、捕手藤堂となる)伊藤儀打に送り、勝川右翼線二壘打して二者生還して同點、鶴岡の第一球第二球共暴球となり勝川生還、鶴岡三壘後長野四球で二盗、小島の中堅安打で生還、春日井の三振に止んだが愛商二點をリードす(松一愛4) △第八回 松山三森四球に出たが寺内のバント捕前に落ち封殺、藤堂三振山下投術△愛商高橋、小塚三振手鳥投術(兩軍0) ◇第九回 松山宇野二壘高須右飛阿部三振に入らず五A對三にて愛商商優勝し平沼氏より優勝盃を授與さる。閉戦四時十五分

【戰評】

◇松山、愛商共に左右の相違こそあれ投手力は克く拮抗して共にカーウの武器を振り廻して互に敵の殺倒を阻んだ。小島は三回のピンチに高須と尾茂田の長單安打が重來して二點を奪はれ、山下は二回に小島の三壘打と小塚の單打があつたが兩者共に之れに交えた四球が、小島は安打前、山下は安打後であつた差違が二點と一點を區別したわけであるが試合は小島に力強く進んで居た。

◇山下の左投げはカーウはよく落ちるが手首の押へが足りない爲めニューットの球が皆外方へ出て折角のミックスが皆無効に了るのは惜しい。此ニューットが今少しコントロールを得れば投球の威力は倍加する。果然七回裏に小塚をインドロップの落下點で足先の死球に出し手鳥をアウトニューットの外れ球で四球につどかせた。併しこれは別段山下の危急を告げた譯ではない。此時ベンチは急遽三壘の三森をプレー

トに呼んだ上、試合前に口邊を傷つけた藤堂にマスクをつけさせた。負傷を押して出陣した藤堂の意気は嘉すべきであつたがマスクの當る口邊に傷つけた藤堂には決して十分な活躍が出来る筈はない。此のバッテリー交送は松山の爲めにアセリ過ぎた用兵であつた。

◇三森の上手投下ロップは素晴らしい立派なものである、寧ろ素晴らしい過ぎて却つて殊を買つた。無死二走者のピンチは老巧な投手にも容易ならぬ重荷である、こゝへ引出された三森が懸命になるのは無理もない。そして懸命すぎた餘裕のない球は勝川の二壘打を襲つて二點を入れ、更に其の失敗を償はんとした努力は、あらゆる限りの武器を磨かせて出来る限りのカーウを繰り出させた。結果はカーウの大きすぎた爲めに鶴岡の第一、二球をバウンドさせて逆に敵手にリードされた。併し今少し三森にウオームアップを十分させてあのスピードとドロップを十分に發揮させたら彼のピンチングは決して不足なものではない

◇三森がムキになり過ぎたと共に、藤堂の捕球がドロップの球を捕るには餘りに危い捕り方である。右手を上から叩き被せる捕球は、時偶リーグ戦などでも、練習時の遊び半分な捕手に見ることはあるが、取つた試合には、あんな捕り方は見やうとて見られるものではない。勿ね上る球を球の向ふから叩きつけてミットに押へ込まれる道理がない。三森の二球共ワイルドと記録されたが、眞の失策は藤堂に斜

【選抜試合愛商對松山決戦々蹟】

球の注意を興へる程度で續行せしめた方が禍ひは小さかつたに違ひない。(菅藤生)

松山										愛商												
打	得	安	打	振	盗	三	四	刺	補	失	打	得	安	打	振	盗	三	四	刺	補	失	
数	数	打	数	数	数	球	球	殺	殺	策	数	数	打	数	数	数	球	球	殺	殺	策	
5	2	2	0	0	0	0	0	0	2	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	
(遊)	高	須	4	1	0	0	0	1	1	1	(一)	手	鳥	3	3	0	0	1	0	1	0	1
(左)	阿	部	2	0	1	0	0	0	2	0	(二)	伊	藤	4	2	0	0	0	0	0	2	3
(中)	三	野	2	0	1	0	0	0	2	0	(三)	勝	川	2	0	0	0	0	0	0	2	1
(三)	茂	田	3	0	0	0	0	0	1	0	(游)	鶴	岡	4	2	0	0	0	0	0	2	3
(投)	三	森	4	0	0	0	0	0	1	0	(中)	長	小	3	1	0	0	0	0	1	0	1
(捕)	寺	内	4	0	0	0	0	0	1	0	(右)	春	日	4	0	0	0	0	0	1	0	2
(左)	高	須	3	0	0	0	0	0	1	0	(二)	井	橋	4	4	0	0	0	0	1	0	2
(右)	野	村	4	0	0	0	0	0	1	0	(計)	小	塚	3	1	1	0	0	0	1	0	2
(計)	宇	野	4	0	0	0	0	0	1	0		計		30	5	6	1	2	4	5	27	13
	計		33	3	5	0	0	6	5	24				1	2	4	5	27	13	2		

(三壘打)小島(二壘打)高須・山下・失  
野・勝川(外球)小塚(暴球)三森2  
(與へし安打)山下4三森2  
(審判)池田・藤田・三宅氏  
(時間)十一月五日 2.03—4.15於外苑  
晴

鳴海球場だより

名古屋鳴海球場開設三週年記念野球戦を十月十七、十八、十九の三日間舉行

△愛知商業2 A 1 對 松本商業

開始十月十七日午前九時卅五分(球)加賀(壘)石井、小林 終了十一時廿五分

松本0001000000

一二三四五六七八九

2 A 計 1

△愛知商業1 對 甲陽中學

開始十月十七日午後〇時十五分(球)小島(壘)小澤、渡邊 終了二時十分

甲陽0000000021

一二三四五六七八九

6 A 計 3

△二宮中學4 A 對 2 岐阜商業

開始二時五十分(球)酒本(壘)伊藤、小林、終了四時卅分

岐阜0000100001

一二三四五六七八九

4 A 計 2

△松本商業3 對 1 愛知一中

開始三時五分、終了五時、(球)小島(壘)酒本 渡邊

松本1000000001

一二三四五六七八九

1 A 計 3

△中京商業4 對 2 松本商業  
開始十八日一時十分(球)小島(壘)小池、渡邊 終了二時五十分

中京0001300000

一二三四五六七八九

2 計 4

△愛知一中5 A 對 4 岐阜商業

開始午後三時十五分、終了五時廿五分(球)西村(壘)野田、石井

岐阜0000210001

一二三四五六七八九

5 A 計 4

△愛知商業1 對 1 甲陽中學(十二回補回戦)

開始十九日午前九時半、終了〇時半(球)西村(壘)伊藤、小林

甲陽010000000000

一二三四五六七八九

1 計 1

△中京商業7 對 0 平安中學

開始〇時四十分、終了二時四十分(球)加賀(壘)小澤、野田

中京00030002002

平安000000000000

0 計 7

△松本商業3 對 1 愛知一中

開始三時五分、終了五時、(球)小島(壘)酒本 渡邊

松本1000000001

一中010000000001

1 計 3

(定價) 一年金五圓九拾錢(送料共)  
二年金五圓九拾錢(送料共)  
△外郵便は一部郵税六錢増

送金 註文は凡て前金とす前金切の場合は發送を止む  
に就 郵便切手代用は一割増  
送金は振替又は爲替の事  
て (振替は餘裕日時を要す)

代金引替一切謝絶す

昭和五年十一月十七日印刷  
昭和五年十二月一日發行

博報堂萬年社

東京市外下戸塚五〇三番 俱樂部  
編輯兼 河野安通志  
發行人 藤至宏

東京市麹町區内山下町一ノ一  
印刷所 中央新聞社代理部

發行所 運動界社  
電話牛込五五六番  
振替口座東京三番

運動界大賣捌所 東京堂 東海堂、  
北條館 大東館 大東館本郷支店、京都  
大誠社、大通、京城大阪屋號書店